

令和元年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとおし、比較優位性の高い「選ばれる学校」となる。				<h1 style="text-align: center;">学校関係者評価</h1> <p>※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: right;">5</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">:</td> <td style="width: 50%;">最も良好</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>ほぼ良好</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">3</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>普通</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>やや不良</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1</td> <td style="text-align: center;">:</td> <td>不良</td> <td></td> </tr> </table>								5	:	最も良好		4	:	ほぼ良好		3	:	普通		2	:	やや不良		1	:	不良	
5	:	最も良好																															
4	:	ほぼ良好																															
3	:	普通																															
2	:	やや不良																															
1	:	不良																															
基本方針		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 時代が求める教育を展開する</li> <li>2 地域有数の進学校となる</li> <li>3 学園力を集結させる</li> <li>4 高大連携、高専一貫教育を推進し、法人内学校との連携を深める</li> <li>5 健全な運営体制を維持する</li> </ol>																															
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況																											
◎星陵ラボ、ICT・英語教育を実施し、時代が求める教育を展開した ◎質・量ともに満足できる進路実績をあげることができた ◎新大学入試制度に対応する教育を展開した ◎学業成績優秀な生徒の入学と募集定員の確保ができた ◎オーストラリア・カナダの学校と相互交流を行うことができた ◎法人内各校へ優秀な生徒を送ることができた ◎「主・対・深の学び」の学習形態のあり方を研究し実践した		<b>【入口目標】</b> ◎募集定員を充足し、地域のニーズに応える <b>【中身目標】</b> ◎主・対・深の学び、グローバル教育、ICT教育 星陵ラボ、入試改革、法人内連携教育 <b>【出口目標】</b> ◎文理にバランスの取れた人材の育成		◎学園の健全な運営体制を維持するため、目標定員を確保する ◎時代にあった質の高い一貫教育を展開する ◎進学校として地域から評価される進路実績をあげる ◎新大学入試制度に対応する教育を実践する ◎学園の力を集結し「認知能力」及び「非認知能力」を育成する ◎時代が求める教育を展開し、21世紀型スキルを育成する ◎成果を求める教育を展開し、世界に発信できる授業を研究する		目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成																											
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均																				
			評価	平均		評議員A	評議員B	保護者	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者																					
総務部	グローバル教育、ICT教育、アクティブラーニングの実践をとおして高大接続改革に対応する。	主体的・対話的な教育手法を実践し、探究学習・課題研究における事前・事後学習・成果発表などの活動を積極的に展開した。	4	4.0	本校のあらゆるコースにおいても実践できるよう教員間においてスキルの共有化を図る。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.4																			
		「認知能力」と「非認知能力」を獲得するために必要な様々な分野の知識を他所属の教員とも学び合った。	4		学園80周年記念事業ともリンクさせて教員間の深い学びを実現する。																												
	学園の健全な運営体制を維持するため、目標定員を確保し、地域のニーズに応える。	入試に関する情報収集及び分析能力を向上させ、内申点などより正確な分析を行い、募集活動に活かした。	5	他校動向の分析、受験生の分析をはかり、今年度を超える受験者数の向上を実現する。																													
		競合他校動向を正確に調査し、弱点研究と同時に星陵の強みを最大限広報した。	4	4.3	星陵の教育の中身についての広報をより多く発信していく。																												
入試広報課	中学60名、高校400名の学則定員を確保する。	タイムリーな情報発信のためにマーケティング研究を行った。同時に教職員一人ひとりのプレゼン力を向上させた。	4	4.0	中小学校のスケジュールを鑑みて、ユーザーニーズに合ったスケジュールを策定した。<達成>	5	4	5	4	4	4	4	5	4.4																			
		イベント内容を工夫し、小中学生のニーズに合わせた広報を行う。	4		持続的な学校経営の見通しが立てられるよう、低学年からの集客を強化する。																												
総務課	「星陵の安全及び星陵に対する高い満足度」のイメージを惹起・強化させ、それを拡散する。	星陵の様々な教育資産（魅力・強み）を積極的に発信する。	4	4.0	ウェブサイトを他、様々な情報ツールを活用して多角的・重層的に情報を発信した。<達成>	5	5	5	4	5	4	4	5	4.7																			
		式典や行事の準備を早めに行い、課内での役割を明確化し責任をもって遂行した。防災組織・マニュアルを更新し、年間を通じて防災意識を高めた。	4		式典・行事を状況に応じて実施できるように対策を作成した。<達成>																												
図書課	「時代が求める教育の展開」を図書コーナーから発信していく。	スクールバスの運行管理を正確に行った。	4	4.0	日課に合わせて適正にスクールバスを運行させた。<達成>	5	4	4	4	4	4	4	5	4.1																			
		学校図書館構想図に則った取り組みをした。	4		各教科における図書コーナーの利用活動計画をもとに、環境を整備する。																												
管理課	学習環境の整備・安全の確保をする。	科学教育・グローバル教育・アクティブラーニングに役立つ書籍を拡充した。	4	4.0	課題研究や生徒のニーズから、学問や進路研究への橋渡しとなる書籍の拡充を行う。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																			
		年度初めに学習環境を整え、停滞することなくスタートした。ICT機器の管理を徹底し、特別棟にICT機器を導入した。	4		生徒の増減に鑑み、速やかに施設備品を準備する。生徒が安心して学習や探究活動を行えるよう、校内のICT機器のセキュリティを管理する。																												
教務部	グローバル教育・ICT教育を通して、21世紀型スキルの育成を図る。	ICT機器の活用やPBL型授業を実施した。	4	4.0	ICT機器を活用したアダプティブラーニングおよび形成的評価を推進していく。	5	5	4	4	4	5	4	5	4.6																			
		SDGsを柱とし、グローバルな視点の育成を図った。	4		G-ST EAM教育の実践に向けた検討を開始する。																												
教務課	大学入試改革に向け、準備と評価を繰り返す。	英語4技能の向上のため、朝の20分を活用した。	4	4.0	新学習指導要領に基づいた教育課程を完成させる。	5	5	4	4	4	5	4	5	4.4																			
		学習指導要録等の電子化を進めた。	4		ポートフォリオ活用方法を担任が理解する。																												
教育相談課	生徒の健やかな育をサポートする。	月1回のカウンセリングを活用し生徒状況を把握し問題解決のための指導に当たった。	4	4.0	カウンセリング希望者増加に対応する環境を整える。	5	5	4	4	4	5	4	5	4.4																			
		月1回教員へ教育相談通信を発行し現代の教育相談の在り方を周知した。	4		生徒とのコミュニケーションを密にし、担任レベルで第1段階の問題解決を可能にする。																												
21世紀型スキル推進課	星陵ラボや課題研究などを通して21世紀型スキルの育成を行う。	星陵ラボや課題研究などの教育研究体制の整備を行った。	4	4.0	20グループで延べ146名が課題研究活動に参加し、主体的な活動を展開した。<達成>	5	5	5	4	5	4	4	5	4.6																			
		活動の成果を学会や地域の発表会などで情報発信をした。	4		学会等の発表を延べ102名が実施、論文賞などの受賞を18件、研究助成を9件受けた。<達成>																												
法人内連携教育推進課	法人内専門学校・大学への希望者と進学者の増員を図る。	静岡理工科大学の出張講義、高大プログラムを通じその魅力を発信した。	4	4.0	今後の教育に沿った高大連携プログラムを検討し次年度実施できるようにした。<達成>	5	5	5	4	4	4	4	5	4.4																			
		模擬授業、高専講座を通じて専門学校の魅力をアピールした。	4		法人内専門学校への進学者数を40名以上にすることができた。<達成>																												
グローバル教育推進課	星陵型グローバル教育を拡充・展開し校内外に発信する。	SEIプログラムでは10か国20名の外国人講師を招聘し星陵型教育を展開した。	4	4.0	次年度は高校1年生の総合コースも対象とし、プログラムの拡充を図る。	5	5	5	4	4	4	4	5	4.4																			
		米国、カナダ、豪州への短期研修・中期留学を実施し92名が参加した。	4		短期研修の内容を充実させつつ、中期・長期留学プログラムを増設する。																												
	国語	海外提携校（中国・豪州・カナダ）から46名が来校し親睦を深めた。	4	4.0	次年度の海外提携校3校の来校において、生徒中心の活動を展開する。	5	5	5	4	4	4	5	5	4.7																			
		グループ学習等のALを取り入れた実践が行われた。	4		ICT機器を活用を検証し、効果的で効率的に利用した。<達成>																												
教科	地公	ICTの活用としてはパソコンのキーボードがよく用いられた。	4	4.0	学び合い、現場に生かしていく。シラバスのさらなる更新をする。	5	5	5	4	4	4	4	5	4.4																			
		思考コードを意識しながら授業計画及び実践を行った。	4		基本的知識を基盤としながらそれらを活用する力が向上した。<達成>																												
	数学	ICT教育やアクティブラーニング型教育の実践と、数学的活動を交えた授業実践を行い論理的・創造的思考力を育成する。	ICT機器の活用やディスカッションなどを取り入れて能動的学習を行った。	4	4.0	生徒が自由記述問題などに意欲的に取り組む姿勢が見られた。<達成>	5	5	5	4	4	4	5	4.6																			
			授業内でICT機器を活用し発表や討論、グループワークを行った。	4		ICT機器の活用方法の共有と指導法の検討を行った。<達成>																											
	理科	新大学入試制度に対応した教育を展開し、基礎基本的な知識技能の習得や思考力・判断力・表現力を育成する。	授業実践例を共有し、アクティブラーニング型授業を実践した。	4	4.0	教科指導力を研究・実践する場を教科内で設け授業の質を向上させた。<達成>	5	5	5	4	4	4	5	4.7																			
			ICT機器やCloudを活用した教材の研究を行った。	4		Classiやロイノートで教材として活用した授業を展開した。<達成>																											
	保体	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。	教科における生徒主体のアクティブラーニングの研究を行った。	4	4.0	資料作成やプレゼンテーションを実施し、情報を収集・解析・発信する力を育成した。<達成>	5	5	5	4	4	4	5	4.7																			
			ICT機器を活用し、グループワークによる対話やプレゼンを行った。	4		自分の身の回りにおける健康要因を理解する事、活用できることを対話を通して理解させた。<達成>																											
	美術	主体的に作品制作に励む姿勢を育成する。	自分のダンスやフォームを撮影し、スポーツを科学する楽しさを養った。	4	4.0	自分の課題点を目で見えて理解することで、技術を向上する楽しさを養うことができた。<達成>	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																		
			生徒が自分で考え、アイデアを出し、計画的に作品制作を進めた。	4		作品制作計画書を作り、作業進度を生徒自身が確認する。デジタルコンテンツの活用を研究する。																											
	書道	日常的な書写能力の向上を図る。	多くの芸術作品に触れ、芸術的感性を高めた。	4	4.0	デジタルコンテンツの活用を研究する。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																		
			楷書、行書の二つの書体を中心に毛筆における運筆のリズムを習得させた。	4		運筆における緩急・遅速・強弱の変化を体得させることができた。																											
英語	ICT教育を効果的に活用し、アクティブラーニングを通して英語の4技能の育成を図る。新しい大学受験に対応した授業を展開する。	硬筆について様々な書式に対して枠の使い方や余白の取り方を指導した。	4	4.0	多くの実務的書式を習得すると共に、新しい教材の作成に努めた。	5	5	5	4	5	4	5	5	4.9																			
		ICT機器を活用しグループ活動やプレゼンテーション、ディベートなどの活動を実践した。英語による情報を収集・発信する能力を育成した。	4		ICT機器に関する知識を深め、より効果的に活用する。新大学入試に対応した英語力育成を図った。<達成>																												
家庭情報	日常生活とのかかわりを意識させ、生きる力を養う。	思考コードを活用し、授業計画を作成し、より効果的な教材を取り入れ実践した。	4	4.0	英語のインプットとアウトプットを育成する活動をバランスよく取り入れ、英語総合力を向上させる。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																			
		社会現象から、家庭科と社会生活とのかかわりを意識させた。	4		自分の考えや作ったものについて、プレゼンの技術を高める。																												
	情報におけるスキルとリテラシーを培う。	生徒が主体的にものを作る姿勢を培った。	4	4.0	家庭科と実社会のかかわりをさらに意識させる。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																			
		生徒が自分で考えて判断することを意識した。	4		個人のスキル差に対応する授業を研究する。																												
		Officeを活用する技術を習得し、活用能力を高めた。	4	4.0	ソフトの活用能力を高め、他の授業でも活用する。	5	5	4	4	4	4	4	5	4.3																			

指導部	生徒・保護者の希望が叶えられる進路指導を実現する	進学講座の構成と質を高め、生徒の受験計画に対応した講座を組んだ。	4	4.0	「新テスト」に対応した進学講座へ改革を進めた。＜達成＞	5	5	5	4	4	5	4	4.6
		次年度開始される「新テスト」に対する指導体制を整えた。	4		新しい情報を早期に入手し、即対応できる様に努める。								
		クラッシーを活用して学習状況を把握し、効果的な学習方法を指導した。	4		全教員に対して、ICTの活用スキル向上を図る。								
大学進学指導課	指導体制の抜本的な見直しを図り、成果につなげる。	「いじめアンケート調査」を年間4回行い、把握に努めた。	4	4.0	アンケートに加え、校内巡視等を計画的に行い状況把握に努める。	5	4	4	4	5	4	5	4.4
		生徒・教員に対して、集会や書面により、いじめ防止に対する意識を高めた	4		HRを利用し、「いじめ防止」に対する生徒一人ひとりの意識を高めた。＜達成＞								
		保護者対象の大学入試改革の情報提供会を新たに開催した。	4		模試分析及び対策を検討し、教師間の情報共有を強固にする。								
進路課	学校推薦による就職希望者の内定率を100%にする。法人内専門学校への進学者を増加させる。	職員対象に進路指導研究会を行い、情報を共有化した。	4	4.0	講座の更なる改革を行い、進学実績につなげる。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		講座改革を実行し、次年度の課題を明確化した。	4		各教科の抱える課題を把握・共有し、指導改善を行う。								
		就職ガイダンスを通して企業が必要とする人材育成に努めた。	4		各企業の情報を集め、生徒の現状に合った就職指導を行う。								
生徒指導課	生徒が主体的に活動し、外部から評価される学校となる。	法人内専門学校の魅力をアピールし入学者数の増加に努めた。	4	4.0	進路説明会を通して、法人内専門学校の情報を生徒・保護者に伝えた。＜達成＞	5	5	5	4	4	4	4	4.4
		いじめ啓蒙の生徒指導通信の発行や集会を行った。	4		生徒の安心・安全を実現させるため、情報を収集し、発信した。＜達成＞								
		監視強化を図り、生徒指導・交通指導を充実させた。	4		スマートフォンの正しい使用方法をさらに浸透させる。								
保健体育課	各活動を通して自発的・自主的な活動を実践する能力を育成する。	生徒主体の体育祭及びマラソン大会などで望ましい人間関係をつくった。	4	4.0	体育祭実行委員を早い時期から招集し、具体的な指導を綿密に行う。	5	5	4	4	4	4	4	4.3
		体育施設の安全確保と有効利用を行った。	4		用具の日常的な点検を行い、安全確保に努める。								
		探究学習・課題研究をPDCAサイクルで実施した。	4		中学校段階から、高大接続改革への対応を行う。思考力・判断力・表現力を育成する。								
中学部	①「知」「徳」「体」「美」のバランスの取れた人間を育成する。②21世紀型スキルを育成する。	主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行った。	4	4.0	中高の6ヶ年を通した知育・徳育・体育のあり方を再検討した。美育行事を見直した。＜達成＞	5	5	5	4	4	4	5	4.6
		Classiを活用し、学習習慣の確立や活動の記録の習慣化に努めた。	4		自己向上のための活動に主体的に取り組ませるための啓発的な行事を検討した。＜達成＞								
		進路ガイダンス等を実施し、変化する教育環境についての情報を提供した。	4		進路の明確化と、実現に向けた学力や技能を向上させ、実績を記録させる。								
高校1年部	進路実現に向けての基礎作りを実践する。	教科指導の充実と自学自習の推奨を行った。	4	4.0	受験指導に向けたポートフォリオの作成を充実させた。＜達成＞	5	4	5	4	4	4	4	4.3
		定期試験後に教科会を実施して生徒の現状把握と改善策を検討した。	4		各コース、各種外部模試における目標偏差値を明確にさせた教科指導を充実させる。								
		模試の結果を分析し、AO入試・推薦入試など特性に応じた受験指導を行った。	4		AO入試・推薦入試における基礎学力試験に対応できる学力を定着させる。								
高校2年部	新大学入試制度に対応する教育の展開と進学校としての絶対的地位を築く。	個別指導を充実させ、受験大別別の対策を実施し、合格者を増やした。	4	4.0	各コース毎の授業内容・進度を見直し、生徒の目標の実現に向けた教科指導を充実させた。＜達成＞	5	5	5	4	4	4	4	4.4
		探究学習・課題研究をPDCAサイクルで実施した。	4		中学校段階から、高大接続改革への対応を行う。思考力・判断力・表現力を育成する。								
		主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行った。	4		中高の6ヶ年を通した知育・徳育・体育のあり方を再検討した。美育行事を見直した。＜達成＞								
高校3年部	生徒個々の特性を生かした進路指導を実施し、進路目標の実現を目指す。	Classiを活用し、学習習慣の確立や活動の記録の習慣化に努めた。	4	4.0	自己向上のための活動に主体的に取り組ませるための啓発的な行事を検討した。＜達成＞	5	4	5	4	4	4	4	4.3
		進路ガイダンス等を実施し、変化する教育環境についての情報を提供した。	4		進路の明確化と、実現に向けた学力や技能を向上させ、実績を記録させる。								
		教科指導の充実と自学自習の推奨を行った。	4		受験指導に向けたポートフォリオの作成を充実させた。＜達成＞								
高校3年部	生徒個々の特性を生かした進路指導を実施し、進路目標の実現を目指す。	定期試験後に教科会を実施して生徒の現状把握と改善策を検討した。	4	4.0	各コース、各種外部模試における目標偏差値を明確にさせた教科指導を充実させる。	5	4	5	4	4	4	4	4.3
		模試の結果を分析し、AO入試・推薦入試など特性に応じた受験指導を行った。	4		AO入試・推薦入試における基礎学力試験に対応できる学力を定着させる。								
		個別指導を充実させ、受験大別別の対策を実施し、合格者を増やした。	4		各コース毎の授業内容・進度を見直し、生徒の目標の実現に向けた教科指導を充実させた。＜達成＞								
			平均	4.0									4.5

## 評価委員のコメント

- ・建学の精神「誠」「友」「厳」を指導の根幹とし、常に時代の先を見据えた教育をめざして実践されていることを感じます。そして、校長先生を始めとし先生方の意思統一が成されていることが、個々の言動や行動など、外部（近い）から見ていて伝わります。生徒の生き生きとした表情や確かな学績など非常に素晴らしいと思いますし、保護者の期待にも充分に応えることが出来ております。
- ・近年では、競合公立校との比較目線で見られることが多くプレッシャーもあるとは存じますが、都心の有名校に行かずとも、星陵高校に任せれば大丈夫と言う声も聞かれます。今後もさらに特徴ある中学校・高校づくりを目指し、様々な取り組みを実践していきましょう。
- ・新型コロナウイルスの発生により世界経済が未曾有の状態となり、医療を始めとする様々な分野で大きな支障をきたす中、教育に関しても過去に類を見ない状態となっています。この状況の中で、星陵中学・高等学校は的確な状況判断と対応で生徒への感染予防対策を講じ、卒業生への配慮や新入生への対応ができた事は、大きな評価に値すると思います。
- ・星陵中学校・高等学校は、生徒の可能性や新たな時代に相応しいグローバル教育目標を定め、実践し教養と人間の育成・個性を生かす教育に評価を致します。国際社会に向けて身に着けるグローバル教育プログラムの中で、グローバル研修も実施され、素晴らしい学習が出来たものと思います。また、生徒たちは地域に於いても各分野での輝かしい活動・評価・表彰等を頂き自信と誇りを身につけ真の価値を理解していると思います。今回のように予想されない事態の中でも、今まで学んだ学習を基に自宅に於いてもICT機器を使いPBL型授業の実践を現実的に直面した形で学び、そして活用し、災害に対しての、大企業が行っている「テレワーク」を実践している状況とも言えます。大きく変化する時代の中で、これまでと同様に先生方に指導力と教育方針と方向性を見極めて行って頂けるよう期待を致します。
- ・星陵の校訓、基本方針に沿った教育が完全にできていると思います。グローバル教育、ICT教育等を積極的に取り入れ、更なる新しい未来の学校創りに期待しております。2月後半より新型コロナウイルスの対応に多数のご意見もありましたが、早い対応が大きな問題にもならなかったと思います。ひとつ言うなら親と子供の家庭教育も学校と一緒に、より良い学校家庭づくりをしていければと思います。
- ・進学校としての認知度が高く、進路実績も着実に上がっていると思います。また、学力だけではなく、星陵生としての礼儀正しさがあり、人材育成目標の表れだと思います。新年度も昨年度同様に頑張ってください。
- ・大学進学 地域（小学校・中学校）から進学校としての認識が定着して来ていることは毎年の進学実績と星陵からの情報発信が効果をもたらしていると思います。また、生徒の日常生活に対して常に危機意識を持ち問題発生時には迅速な対応をなされていると思います。今後も生徒一人ひとり個性を生かした教育の中でグローバル化に柔軟に対応できる人材を育てる学校を目指してほしいと思います。